

第24回 外国人による  
日本語弁論大会

**The 24th  
International Speech Contest  
in Japanese**

日時：平成25年8月31日（土）

13時～16時30分

場所：アイパル香川（香川国際交流会館）

主催：公益財団法人香川県国際交流協会

共催：香川県

協賛：高松キワニスクラブ、国際ゾント高松ゾントクラブ

後援：NHK 高松放送局、四国新聞社、KSB 瀬戸内海放送、RNC 西日本放送、  
香川大学、四国学院大学、徳島文理大学、高松大学・高松短期大学、  
香川短期大学、香川高等専門学校、専門学校穴吹ビジネスカレッジ日本語学科

## プログラム

13：00	開会・挨拶
13：05	審査員紹介
13：10	弁論（前半）
14：15	休憩
14：30	弁論（後半）
15：30	審査会
16：00	審査結果発表 （講評、表彰）
16：30	閉会

## 審査員

NHK 高松放送局 放送部長	相川 恵祐
四国新聞社 編集局次長	木原 光治
株式会社瀬戸内海放送 報道制作ユニットグループリーダー	多賀 公人
西日本放送株式会社 営業局ラジオセンター長	采野 友啓
高松キワニスクラブ 会長	眞鍋 民雄
国際ゾンタ高松ゾンタクラブ 会長	三野 紀美子
仏生山国際交流会 代表	十河 瞳
香川県 知事公室長	和田 光弘
公益財団法人香川県国際交流協会 理事長	多田野 榮
公益財団法人香川県国際交流協会 日本語講師	山下 知美

順不同、敬称略

この冊子は弁論大会で発表された内容をもとに作成されています。

## 出 場 者

パン ティ タン ニャン (ベトナム) 「肉がこわい!!」 .....	2
ジョン テヒ 鄭 泰熙 (韓国) 「日本のお辞儀」 .....	3
ヌル アマリナ ビンティ カマルディン (マレーシア) 「本の楽しさ」 .....	4
カナル サンジープ ラズ (ネパール) 「異文化に対する驚きと母国への想い」 ...	5
ジャン 張 ヌリ (韓国) 「日本の友達を作るには」 .....	6
チン ホカン 陳 甫翰 (中国) 「ライフスタイルを省エネにつなげよう」 .....	7
イ サラン (韓国) 「日本人は一日何回挨拶する?」 .....	8
パク ドンヒョク 朴 東赫 (韓国) 「日本で好かれる韓国の男性、韓国で好かれる日本の女性」 ...	9
オウ ムジョウ 汪 夢情 (中国) 「キャラクターが好き?!」 .....	10
ブイー マン クォン (ベトナム) 「うどんから学んだ日本語」 .....	11
リン ゲイカ 林 芸華 (中国) 「素敵なお日本女性と教育」 .....	12
ジョン ドンシン 全 東信 (韓国) 「『マニュアル』の日韓差」 .....	13
コウ ビ 黄 薇 (中国) 「『なるほどの味』いただきます」 .....	14

## 「肉がこわい!!」

### パン ティ タン ニャン (ベトナム)

私は、去年の10月4日に日本へ来ました。同じ国の先輩たちもいたので、日本に来たその日から、すぐ、安心して生活を始めることができました。

これからお世話になる大家さんに、ベトナムからのお土産として干し牛肉を渡しました。「これは、ベトナムのお土産で、とてもおいしいですよ。どうぞ召し上がってください」。

私は、大家さんは、当然、喜んでくれるものと思っていたのですが、予想に反して、大家さんの表情は、少し不満そうでした。そして、「どうも、すみません、すみません」と言いました。

私は、何か変な返事だなあと考えて、どうして「ありがとう」じゃなくて「すみません」なのだろう。大家さんは、私に、何か悪いことでもしたのかな。それとも、お肉は、お土産としてふさわしくないものだったのかな。そんな考えが、頭の中をよぎりましたが、とにかく、そのお土産を食べてもらいました。すると、大家さんは、大きい声で「すごい肉がこわい。でも、味はおいしい」と言いました。

私は、その言葉にショックを受けました。日本人は、礼儀正しいし、相手の気持ちをよく考えて話すと思っていたのに、どうして、こんなひどい言葉を、今日、会ったばかりの私に言うのだろうと思って、混乱してしまいました。どうして「すみません」？ どうして「こわい」？ それはどんな意味？ そのあと、楽しく話しましたが、私の心の中は、寂しさと不安な気持ちでいっぱいでした。

日本へ来て1カ月後、アルバイトを始めました。仕事を早く覚えたのに、周りの人たちから褒められることはなく、逆に、叱られることが多かったのです。私には、理由が分かりませんでした。

ある日、みんなが、私に対する不満を言っているのを、偶然に耳にしてみました。「ニャンさんの耳はまだまだやわ。『これ片付けまい』と言っても、全然、分からんみたい」。えっ？ 私には寝耳に水でした。その言葉は、習ったこともあるし、ちゃんと聞き取れていたからです。「ニャンさん、これ片付けまい」と言われたので、私は、ちゃんと片付けないように気を付けていたのです。どうして、言われた通りにしているのに、叱られて、悪口まで言われるの？ 私には、訳が分かりませんでした。

その日以来、私は落ち込み、自信もどんどんなくなっていきました。自分の日本語能力は低く、日本での生活は大変だと思い、何度も国へ帰りたくなりました。悩んだ末、学校の先生方に、自分の悩みを話しました。する

と、先生方は、「なるほど、なるほど」と何回もうなずき、とっても驚いた様子でした。そして、先生に説明してもらって、やっと原因が分かりました。

そうです。答えは讃岐弁だったのです。このことは、今も忘れられない瞬間です。

時間が経ち、今ではバイト中の讃岐弁にも慣れました。今では、「こわい」は「硬い」、「しまい」は「してください」という意味の方言だったことが分かりました。そして、おもしろい讃岐弁を勉強して、話せるようになるのが、楽しみの一つになっています。

暑い日には「今日、がいに暑くて、えらい」、ご飯を食べたあとは「うわあ、おなかがおきた」、帰るときは「山本さん、いぬな？」こんな讃岐弁も自然に出てきます。「ニャンさん、最近は、讃岐弁たくさん知ってて、すごいね」と言われて、「いいえ、まだまだです」と答えるときが嬉しい瞬間です。他の人にお土産をあげるときは「これ、つまらないものですが、どうぞ」と言い、お土産をもらうときは「どうもすみません、いただきます」と言うのにも慣れました。

日本人は、謙遜の言葉をよく使いますから、意味もいろいろあることを知りました。「すみません」は謝っているのではなく「お世話をかけて恐縮です」という意味です。本当に「おいしいもの」なのに「つまらないものですから」と謙遜して言います。これらは、自分のことは謙遜して、他の人のことを尊敬するという、相手への気遣いから生まれた日本独特の文化です。

郷に入れば郷に従えという諺は、ベトナム、日本だけじゃなくて、どこにでもあると思います。たとえ、短期間の留学でも、そこでの習慣を守るのは重要です。習慣とは、その国が長年かけて育ててきた文化の一つです。自分の国ではないからといって、その国の習慣を無視することはできません。

確かに、何をしても「ダメダメ」とばかり言われると、嫌な気持ちになることもあるでしょう。しかし、その国の人への心配りを怠らないことが、生活を楽しいものに変える秘訣だと思います。本来、習慣とは、とても合理的なものなのです。それに慣れば、外国にいるのが、むしろ楽しく感じられるに違いありません。

帰国するまで、あと半年ほどですが、私は、若いうちにいろいろな国へ行って、新しいことを学びたい。習慣や言葉の深い意味を知りたい。そして、どんどん成長していきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

# 「日本のお辞儀」

ジョン テヒ  
鄭 泰熙 (韓国)

皆さん、こんにちは。

私が日本に来て一番びっくりしたのは、この日本のお辞儀です。

このような90度の深くて長いお辞儀を、私は、今まで、日本の極道映画の中でしか見たことがありませんでした。ですから、実際に、日本に来て、深々と頭を下げられたとき、まるで私がやくざの組長になったかのようで、気恥ずかしかったです。それと同時に、自分が偉くなった気がして、得意気な気持ちにもなりました。

しかし、実際の私はやくざの組長でもマフィアのボスでもなく普通の人間なのだから、挨拶をされたときは、当然こちらも挨拶を返さなければなりません。ここは日本ですから、日本のやり方に合わせなければと思います、私もとっさに深いお辞儀で返しました。

私の国、韓国でも、お辞儀をする習慣があります。日本と同様に、深く頭を下げたら礼儀正しいという印象があります。しかし、このような深いお辞儀は、日本ほど頻繁には行いません。友達や家族はもちろん、初めて会った人や店の客に対しても、軽く頭を下げる程度です。

私は、初めこの習慣に全然慣れることができませんでした。1日1回と決まっているなら、それほど苦にはならないのですが、日本人は1日に何回もお辞儀をするのです。一度お互いにお辞儀したのに、一方がもう一度お辞儀をすると、すぐさまもう一方がお辞儀を返し、すると、さらにもう一度……といった具合で延々と続きます。一体いつお辞儀を終わらせたいのか分からず、困りました。

アルバイトを始めると、挨拶の回数は一気に何十倍にも増えました。お客さんが来ると、店の奥の方にも挨拶をしなければならぬのです。たとえ、その挨拶がお客さんに聞こえなくてもしなければならぬのです。アルバイトの間中、ほとんど挨拶をしているといってもいいくらいでした。

なぜ日本人は、こんなにたくさん挨拶をするのでしょうか。正直大きい声で挨拶したり、何度も深く頭を下げるのは、疲れるし、面倒くさいし、それにメガネも落ちそうになります。挨拶をたくさんした日には、腰も痛くなるのです。日本で生活していく限り、この習慣に慣れなければならないのかと思うと、少し憂鬱でした。

しかし、日本に来て半年が経った今、私の挨拶に対するイメージは反転しました。アルバイトを始めたばかりのとき、慣れない仕事に一生懸命で、お客さんの様子を

しっかり見るほどの余裕がなかったのですが、ようやく仕事に慣れて、一人ひとりを見るできるようになったとき、お客さんが私の挨拶を喜んでくれていることに気がつきました。その笑顔を見ると、私も嬉しい気持ちになり、アルバイトの疲れも少し軽くなったような気がしました。

それまでは、ただ礼儀だからと義務的にしていたのですが、それからは心を込めて挨拶をするように心がけました。そして、挨拶をするのがどんどん楽しくなってきました。

私が客として利用しているお弁当屋さんでも、お弁当を受け取って出るとき、誰もが元気に「ありがとうございます、またお越しくださいませ」と異口同音に言うのですが、私がアルバイト先で心を込めて挨拶をするようになってからは、その中に潜む別の意味を考えるようになりました。「私たちが心を込めて作ったお弁当を、ぜひ喜んで食べてください」。きっと、このような意味だと思います。

今では、このような挨拶をされるたびに、その中に隠された意味を考えるのが、私の密かな趣味になっています。

母国にいたときは、挨拶の重要性について、あまり考えたことがありませんでした。挨拶は、ただの礼儀に関するもので、その人がどのくらい礼儀正しいかを測る上での、尺度でしかないと考えていました。しかし、実際に日本で、生の挨拶を経験してみると、それはそんな単純な尺度ではなく、他の人に思いやりの心を伝える手段だったと気付きました。本当に簡単な一言、たった一言の挨拶が、お互いの心に小さな喜びを作っているのです。西洋文化が流入し、着物を脱いだ日本で、今も続く挨拶の文化。私は日本の方々に、ぜひこの素晴らしい習慣を守ってほしいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

# 「本の楽しさ」

## ヌル アマリナ ビンティ カマルディン (マレーシア)

皆さん、こんにちは。マレーシアから来ましたアマリナと申します。

私は本が大好きです。高校のとき、図書委員の私はいろいろな本が読めました。おもしろい本、そうでもない本、悲しい本、優しい本、明日また読みたくなるような本、笑える本、わくわくするような本、どんな本でも読めます。

人気のある本を読むのは好きです。だって、本は読まれるために生まれてきたんだから。人気のない本を読むときは、特に大切に読みます。でも、残念ですがダメなときもあります。汚れた本を読むのも好きです。ページが外れたぐらいなら、いつでも直してあげます。

そんな本たちが暮らしている家、それが図書館です。さまざまな人の知恵、さまざまな人の時間、さまざまな人の想い、それが一堂に会する場、こんな所はどこにもありません。

昔、ドイツのビスマルクが言いました。「歴史から学ぶ者は賢人、経験から学ぶ者は愚者なり」。そして、図書館は人類の歴史の塔。

私が生まれる前の本から、現在の本まで、全部図書館に揃っています。だから、図書委員をやっているときは、本当におもしろかったです。好きな本がいくらでも読めます。本たちも守ってあげられます。ときどき学生たちが、勝手に図書館の本に落書きしています。図書館の本は、みんなのものなのです。大切にしなければなりませんよ。

マレーシアにいるとき、マレー語の本はもちろん、英語の本を読むのが好きでした。『ハリーポッター』という世界中に知られている小説は、7巻全部読みました。とても良かったです。読むときに、夢中になりすぎて、時間の流れも忘れてしまいました。さすが人気がある本ですね。

もし本のジャンルから選ぶとすると、やっぱり私はミステリーの方が好きです。名探偵みたいな話。事件が起こって、犯人を捜すための流れは、いつもドキドキさせられてしまいました。最後まで読まないといけないので、いつも一気に読んでしまいました。

ご飯を食べずに、本を読み続けることもよくあります。母にもよく怒られますが、はまった本は最後まで読まない、やっぱり落ち着かないのです。本の力は、本当にすごいと思います。

日本でももっと本が読みたいのですが、私の日本語の

レベルでは、まだまだ難しいです。私が日本語を初めて習ったのは、まだ3年前だから。もし、日本語の小説など読めるようになったら、日本の習慣や文化をもっともっと勉強できると思います。今は簡単な短編と漫画が、少しずつ読めるようになってきました。

私の大好きな漫画は、緑川ゆきさんの『夏目友人帳』という漫画です。妖怪が見える夏目貴志という主人公の話です。マレーシアにいるとき、英語で読みましたが、日本語でも読みました。やっぱり日本語の方がおもしろかったです。原文の方が、著者の伝えたいことがよく分かります。漢字によるイメージ力は、英語にはないものです。こんなおもしろい漫画が読めるのは嬉しいです。日本語が分かるのは良かったなと思います。だから、もっとたくさん日本語の原書が読めるように、日本語の勉強をがんばります。だって、私は本が好きだから。

しかし、本ってもんはもうなくなってもいいな、本なんて場所をとるばかりだし、全部データにしちゃえばいいんだ、と考えている人がいるかもしれません。

でも、私は納得できません。本は表紙があって、中表紙があって、奥付があって、それで、紙の香り、厚み、手ざわり、全てが本の特徴です。ディスプレイで見る文字に、あのページをめくるときの緊張感はありません。

もし、本が前時代的なものと思っている人がいても、私にとっては本は一生の宝物です。今の時代、電子書籍があっても、紙の本の代わりにはなりません。

本は、人が書いて、人に伝えるものです。本があれば、私の世界はどこまでも広がります。だから、本に囲まれているときは、私にとって一番幸せなときです。皆さんも、本を読むことの楽しさが分かってくれたら嬉しいです。

ご清聴ありがとうございました。

# 「異文化に対する驚きと母国への想い」

カナル サンジーブ ラズ (ネパール)

みなさん、こんにちは。みなさん、ネパールという国をご存知ですか？ 私は3月25日にネパールから日本へ来ました。

日本へ来てからの5カ月、たくさん驚くことができました。今日は、そのことについてお話ししたいと思います。日本の文化や習慣などは、ネパールと違うところがいくつかあり、私を驚かせました。

まず一つ目は、お金です。日本では、たくさんのお金を稼ぐことができますが、一瞬でお金がなくなってしまう。ネパールの1カ月の給料は2~3万円くらいしかありません。だから、物価も安い。反対に日本では、給料が多いので、物価がとても高いです。

私は日本に来た次の日に、さっそく下着を買いに行きました。そのとき、私は自分の目を疑いました。なんと、下着1枚1,000円と書いてあったんです。ネパールでは1,000円もあれば5枚ほども買えます。そのとき、私はちょっとネパールに帰りたい気持ちになりました。こんなに物価が高いのかと。

その日は食べ物も買いに行きましたが、そこで、私はまた自分の目を疑いました。何と1個のリンゴが100円と書いてあったんです。ネパールでは、普通家にリンゴ売りややって来て「1キロ90ルピー！1キロ90ルピー！」と家の前で叫びます。でも、ネパールの女性は、リンゴ売りに「50ルピーなら買う」と、必ず値切ります。日本では100円出しても、たった1個しか買えません。そして、値切れません。他の食べ物も、とても高かったです。マンゴーは1,000円、スイカは2,000円。全ての食べ物の値段が高く、とても驚きました。味は同じなのに、と思いました。

これは、私が日本に来て、一番驚いたことです。

二つ目は、人がとてもきれいなことです。ネパールでは、50歳になった女性は、お寺などに行って、死んだとき天国へ行けるようにとお祈りをします。

でも、日本の50歳になった女性は、みんなまだ働いています。顔も20歳の女性と同じくらいきれいに感じます。みんな、どれだけ美しいんだろう。日本の女性は、年をとらないんだろうか？と思いました。

あとで、日本人の女性に聞いてみましたが、日本人女性は数万円かけて化粧品を買い、そして、毎朝1時間ほどかけて化粧をするそうです。だから、きれいに見えるようです。毎日、きれいな奥さんを見られる日本の男性はラッキーですね。

三つ目は、車です。日本へ来て、道を走っている車を見て、とても驚きました。なぜかという、車の中にドライバーしか乗っていない車がたくさん走っていたからです。

ネパールでは、1台の車に3~4人ぐらい乗っています。田舎へ行くと、ジープの中に11人、車の上に6人ぐらい乗っています。座る場所がないときは、膝の上に座ったり、トランクにも座ります。

ネパールでは、道が良くないですから、お尻が痛くなります。みんな「お尻が痛い、もっとゆっくり行ってください！」と言います。日本は道がきれいなので、お尻が痛くなりません。膝とかトランクに座ることもありません。でも、車の上に乗るのは、おもしろいし、景色もよく見えるので、私はときどき懐かしくなります。

みなさん、ネパールに行ったら、ぜひ車の上に乗ってみてください。とてもおもしろいですよ。

私はあと2年、香川で勉強する予定です。たぶん今からの2年も、たくさん驚くことがあると思います。学べることもあると思います。

今日みなさんに話したように、ネパールは日本より道も良くありませんし、日本ほどお金がありません。ほとんどの人が、お金がなく、自分や家族が生きていくだけで精一杯です。道をきれいに造ったりするような技術もありません。

でも、ネパールはとてもきれいな国です。ネパール人は、みんな家族を大切にしながら、国を思う気持ちを強く持っています。これは、私の国の誇りです。

私は、ネパールが文化や今ある自然を大切にしながら発展し、世界中の人たちが来たいと思うような国になってほしいと望んでいます。

みなさんはどうですか？ 自分の国がどうあってほしいですか？ そのために、何をしようと思っていますか？

私は、将来得意なパソコンを使って、旅行会社をつくりたいです。そして、その仕事を通して、ネパールと日本の人たちがお互いの文化を知ったり、学んだりできるような機会をつくり、両国の懸け橋になることが、私の夢です。

そのために、言葉だけでなく、日本の素晴らしいおもてなしの心や、文化、習慣をたくさん学び、身に付けたいと思います。そして、ネパールの発展のために努力していきます。

ご清聴ありがとうございます。

# 「日本の友達を作るには」

ジャン  
張 ヌリ（韓国）

こんにちは。私は韓国から来た張ヌリと申します。

私は、善通寺にある四国学院大学に留学しています。日本へ来る前に、友達をたくさん作りたいという目標がありました。

私が日本へ来た日は、学期が始まる前だったので、学校には誰もいませんでした。そのときは、なぜこんな時期に日本に来てしまったんだろう。学校には学生もいないし、友達も作れないじゃないかと思い、学校が始まったら友達をたくさん作ろう、という気持ちで過ごしていました。そして、学校が始まったら、自然に友達ができ、仲良くなれると思っていました。でも、友達を作るのに、難しかった点が三つありました。

一番目は、日本人学生がなかなか話しかけてくれなかったことです。

四国学院大学には、チューターという留学生と日本人学生が一緒に行う活動があります。そのチューターの友達は、私たち留学生を助けてくれて、自分から話しかけてくれたりします。それに比べると、授業を一緒にとっている学生は、話しかけてくれません。

私たちが話しかけたら、日本人の学生たちも話してくれます。私は、てっきり韓国に興味のある学生は、話しかけてきてくれると思っていたのに、そうではありませんでした。

韓国人の場合は、たいてい外国人がいると話しかけます。それは、きっと困っている外国人を助けたいと思う気持ちと、話してみたいという気持ちがあるからです。

それに比べ、日本人の友達は話しかけてくれないので、少し冷たいなという気持ちになりました。私たちに興味がないのか、また、韓国にも興味がないのかも思いました。しかし、日本人の友達と仲良くなったあと、私が思っていたことは、間違いだったということに気がきました。日本の友達は、私たちに冷たいのではなく、逆に私たち韓国人より韓国に興味がありました。

二番目は、電話番号の交換についてです。同じ授業をとって、挨拶もする人がいたので、もっと仲良くなりたいと思い、電話番号を聞いたことがありました。しかし、その学生は教えてくれませんでした。私はとても悲しかったです。韓国人は初めて会った人と、電話番号を交換するという文化があります。韓国は仲良くなりたから、番号を交換します。しかし、日本は仲良くなったら、電話番号を交換するという点で、違うのだと知りました。

三番目は、「ありがとう」の使い方です。韓国人は友達に対して、「ありがとう」という言葉を使うことが少ないです。

それは、言わなくても分かっていることだからです。しかし、日本人は、どんな小さいことにでも「ありがとう」と言います。

私が、日本人の友達に「ありがとう」と言わなかったことがあり、日本人の友達を怒らせてしまったときがありました。私は困ってしまいました。それは、韓国と日本の文化の違いがあるのに、外国人である日本人を、韓国人のように扱ってしまったせいでもありました。

しかし、この日本の文化は、韓国にはないし、とても良い文化だと思いました。そのことをきっかけに、私も変わりました。小さいことにも「ありがとう」と言うよう心がけるようになり、私も、相手も、良い気分で物事を進められるようになった気がします。

このように、韓国と日本の人との付き合い方が、とても違っていてびっくりしました。

日本に5カ月ほどいますが、その間、文化の違いを感じたとき、とっても戸惑いました。これからも、たくさん文化の違いに出会おうと思います。日本の文化を学びながら、たくさん友達を作りたいです。

日本人は、私たちが日本語が話せるのかを心配して、声をかけにくいようです。だからといって、私たちも話しかけなければ何も始まらないので、私たちから話しかけようと思います。電話番号を聞いて断られたときは悲しかったです。希望を持って、もっと友達になれるように努力したいです。そして、韓国へ帰国したら、日本の良いと思った文化を、韓国の人にも教えてあげたいです。

以上です。ご静聴ありがとうございました。



# 「ライフスタイルを省エネにつなげよう」

チン ホカン  
陳 甫翰 (中国)

みなさん、こんにちは。香川大学経済学部4年の陳甫翰です。

前から、多くの方が日本を褒めていましたが、僕からは、悪口を言います。すみません。

日本に来て5年が経ちました。日本の生活は便利で、ライフスタイルを自由自在にすることができると思います。

それは、町中に、コンビニやスーパー、自動販売機がありまして、夜遅くまで営業しているからです。

代表的なのは、コンビニを除いて他にはないでしょう。身近にある上、24時間営業で、気が晴れないときは真夜中にクレヨンしんちゃんを立ち読みしに行けますし、お腹がちょっとすいたときも、棚に種類豊富な商品が並んでいます。生活に必要な商品も、ほとんど揃っています。買い物は時間帯と関係なく、とにかく便利です。

でも、こんな自由自在なライフスタイルを支える環境の背後には、莫大なエネルギーコストがかかっていると思います。

代表的なコンビニでいいますと、24時間営業していて、店内は商品のプロモーションのために、24時間電気が点けられています。食品や飲料水の温度を保つためには、冷蔵庫や保温装置を24時間運転しています。

これらの店内エネルギーコストを、電気代に換算すれば、店1軒が、月約30万円ぐらいです。僕1人の月の電気代が2千円ですので、このコンビニ1軒が、僕150人相当の消費するエネルギーになります。

私のアルバイト経験によれば、多くのコンビニは深夜などの来客数がものすごく少ないので、全然営業する必要がないと思います。もし本当に省エネしたいならば、ここで何かできることがないかと思いました。

3年前の東日本大震災以来、原発廃止や省エネなどは、毎日メディアがうるさく言っていますが、各業界もクールビズなどの対策を打ち出しています。でも、僕はいろいろな宣伝と各業界の対策は、効果が見えないと思います。

なぜなら、それは解決方法が根源的なものではないんです。一昔前の人々のライフスタイルと比べれば、現代人のライフスタイルでは、エネルギーを使い過ぎます。もし、本当に省エネを達成したいなら、絶対人々はライフスタイルを改めなければならないと思います。

「産業革命は地球歴史上の不運な出来事」。初めてこの言葉を聞いたときは、僕はびっくりしました。なぜ人類の生産を増して、生活水準を一段高めた産業革命は不運なことなのか、最初は理解できませんでした。

今考えれば、産業革命以来、人は地球を掘って掘って、燃やして燃やして、エネルギーをつくり出し、生活の質を向上させてきました。

電気が使えるから、我々は夜遅くまで働くこと、遊ぶことができました。電気が使えるから、洗濯乾燥が全部一つの機械ででき、趣味などに使える時間を増やすことができました。電気が使えるから、いつでも温かいお茶が飲めました。

昔話するのが嫌な人いるかもしれませんが、昔、電気がないときは、日が暮れたら人々は寝ていました。洗濯物は自分の手でやっていました。太陽や風を利用して乾燥させていました。温かいお茶を飲みたいときは、保温瓶に詰めているお湯を使っていました。

逆に、現代人に電気なしで生活できるかどうか、問うてみれば、その答はほぼノーでしょう。ライフスタイルを全て昔に戻すのは、無理だと知っています。でも、人間の生物本能にもとづいたライフスタイルにすれば良いのではないのでしょうか。

日が暮れたら寝ます。自分ができることなら機械に任せない。これだけで無駄なエネルギーが、節約できると思います。しかも、これは省エネだけに繋がることのみならず、人々の健康にもいいだろうと思います。

さあ、皆さん、ライフスタイルを改めて、省エネにつなげよう！

ありがとうございます。以上です。

# 「日本人は一日何回挨拶する？」

イ  
李 サラン（韓国）

みなさん、こんにちは。私は韓国から来た李サランと申します。今日、私は、日本と韓国の挨拶について話をしたいと思います。よろしくお願いします。

皆さん、皆さんは1日何回くらい挨拶をしますか。私が日本で生活するまでは、日本の挨拶は、朝、昼、夜で3回だと考えていました。でも、日本の生活を始めてから、私の考えは全部、変わりました。

私は、日本に来てから、ずっと学校の寮で一人暮らしをしています。暮らしを始めたとき、とても慌てたことがありました。一緒に寮で住んでいる人が、私に会うたびに、何回も何回も挨拶をしてくれたことです。そのときは、恥ずかしくて、相手の挨拶も無視して避けてしまいました。

もちろん、あとで「すみません」と言いましたけど、そのあと、部屋に戻って思いました。私は、初対面の外国人なのに、どうして何回も何回も挨拶をしてくれるのか？そして、韓国とは何の違いがあるのか？日本の挨拶は、どんな意味で、何の役割があるのか？この3つが気になって、友達に聞いたり辞書で意味を探したりして、いろいろなことを調べました。

まず、私が知っている日本の挨拶は、3つあります。朝、昼、夜によって「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」と挨拶をすることです。辞書で探したとき、「おはよう」は、「お早い時間にご苦勞様です」と書いてありました。「こんにちは」は、「今日はいい天気ですね」で、「こんばんは」は「いい夜です」と書いてありました。

そこで、私は、一つの意味に気付きました。日本の挨拶というのは、相手に会うからする義務ではなくて、今日の相手の安否を問う意味がありました。

でも、まだ、何回も何回も挨拶する理由が理解しにくくて、学校のお友達に聞いてみました。

「何で日本の人は、何回も何回も挨拶するの？それは何か理由でもある？」と聞いたら、友達はこう答えてくれました。「難しいけど、私が思う日本の挨拶は、今日の相手の安否を問うことと、お互いに、会うたびに、嬉しさを表して見せたいのだと思う」と教えてくれました。

意外でした。私が思ったより深い意味で、韓国とは少し違う意味として、日本では挨拶が使われていました。

それでは韓国と日本の挨拶はどこが違うのでしょうか。

皆さんは、韓国の挨拶を知っていますか？韓国の挨拶は一つだけで、「アンニョンハセヨ」と言います。韓国の辞書で探すと「アンニョンハセヨ」の意味は「私たち

が会っていない間、元気でしたか？」という意味を持っていました。相手の安否を問う日本の挨拶とだいたい同じ意味を持っていますね。でも、違う点もありました。

韓国は一日の挨拶の全部を「アンニョンハセヨ」と言います。そして、韓国は、最初、会ったとき一回だけ、この挨拶をします。そして、また、会ったときには、挨拶の言葉は言わず、頭を下げます。韓国では、会うたびに何回も何回も挨拶をしたら「もう、からかわないでください」と相手から言われるかもしれません。韓国で、挨拶を何回もすると、相手が困ってしまうのです。韓国人は、同じ人に何度も会ったら、どうすればいいか分からなくて、ちょっと、気まづくなってしまうからです。私は、これが一番、日本と韓国で違うところだと考えます。

私は、今回の経験を通じて、日本は、何回も挨拶をすることで、相手に安否を聞いたり、嬉しさも表したりすることが分かりました。そして、日本に来てから、ずっと、笑顔で、私に何回も何回も挨拶をしてくれる友達や先生方に、感謝する気持ちを伝えたいと思っています。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

# 「日本で好かれる韓国の男性、韓国で好かれる日本の女性」

パク ドンヒョク  
朴 東 赫 (韓国)

皆様、こんにちは。日本が好きで、日本の文化を知りたくて、隣の韓国から来た留学生、朴東赫と申します。

私は今日のスピーチで、増加している日韓カップルについて話をしたいと思います。皆様、国際恋愛についてどう思いますか。私はとても興味があります。なぜなら、今実際に体験しているからです。

私の考えでは、日本人の女性と韓国人の男性のカップルは多いと思います。なぜ日韓カップルが増えているのでしょうか。今から私の考えを話したいと思います。

日本人の女性は、韓国人の男性に、いい印象を持っています。日本人の女性は、韓国人の男性に対して、女性に優しい、思いやりがある、積極性があるというイメージを持っている人が多いと思います。

私の考えでは、韓国人の男性は、基本的にマメな人が多いと、私は思います。例えば、毎日連絡をすること、デートのコースを全部決めること、夜遅くなったときに家まで送ってあげることなど、いろいろなマメなことをします。皆様も、韓国のドラマで見たことがあるかもしれません。

では、韓国人の男性たちが見る日本人の女性のイメージはどうでしょうか。韓国では日本人の女性というと、優しいし、彼氏に尽くすし、思いやりがあるし、料理がよくできる人が多いという印象を持っています。自分のお母さんのような感じがする人を、韓国の中では探しにくくなったので、より日本人の女性のことを好きになるのかもしれない。

そうすると、なぜ韓国の男性たちは、日本人の女性を好きになってしまうのでしょうか。その原因を今から話したいと思います。

最近韓国のネットの中では、キムチ女とスシ女という言葉ができました。キムチ女は、韓国の男性たちが韓国人の女性に飽きてしまったから、作り出した言葉です。韓国の女性たちは、人と付き合う前に、中身よりは見た目と、車があるかどうか、おもしろいかを見る人が多くなりました。

もし男性に好きな女の子ができて、前に言ったことの中に属していない男性だったら、告白しても断られるのが分かっているので、告白しない人も多いのです。

それに対して、スシ女、日本人の女性たちは優しいし、思いやりがあるし、何かをもらったら申し訳ない気持ちと一緒に、感謝している姿を見せてくれる人が多いのではないかと思います。それで、韓国人の男性たちも、お

互いに思いやりをやり取りできる日本人の女性と合うと思う人が増えたのです。

今まで私が話したように、韓国人の男性と日本人の女性は、相性がいいと思います。

日本へ来たときには、優しい行動って何か、初めは分かりませんでした。

韓国では、女性にドアを開けてあげたり、車道は危ないから、女性をなるべく車道から遠い所で歩くようにするのが、彼女じゃなくてもする、基本的な行動でした。しかし、ここでは韓国の基本的な行動が優しい行動でした。

グローバル時代だから、国際カップルが多くなるのも、本当にいいんじゃないかなと思います。

皆様、もしかして、好きな外国人がいらっしゃいますか？ もしいらっしゃるなら、誘ってみてください。韓国と日本以外にも、いい人は多いと思います。その機会はいつだと思いませんか。それは今でしょう！

貴重な時間を、誠にありがとうございました。

# 「キャラクターが好き?!」

オウ ムジョウ  
汪 夢情 (中国)

皆さん、こんにちは。今日は、日本のキャラクターについて、話をさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

皆さん、好きなキャラクターのぬいぐるみを抱きながら、眠りに入ったことがありますか？ もしないなら、それを胸に抱いて、子どもがぐっすり寝ているシーンを、どこかの映画や写真で見たことがありますか？ 現代社会に生きている私たちは、ないと答える人は少ないでしょう。

私は日本に来る前に、日本のかわいい文化に憧れていました。日本に来て2年も経ちましたが、私は一つ驚いたことがあります。それは日本で町を歩けば、至るところにキャラクターが溢れていることです。そして、年齢を問わずにほとんどの日本人が、キャラクターグッズを普通に持っていることです。

例えば、ある大手銀行のバンカー、警察のピーポくん、今年大人気のなめこなど、さまざまなキャラクターがかわいくて、癒しのイメージで世界を魅力しています。日本人にとって、日常の生活に定着しているキャラクターは、実は私たち外国人にとっては、不思議に感じられているのです。

言うまでもないですが、日本のキャラクター文化は、グローバル化の急激な進展にしたがって、世界に広がっています。外国の子どもが、自然にアンパンマン、ドラえもんなどキャラクターの名前を口から出すことは、珍しくはありません。外国で、若者を中心に人気を呼んでいる初音ミクとか、そのような大ヒットのキャラクターはいくつも挙げられます。

しかし、中国もそうですが、キャラクターといったら、子どもっぽいとか、不真面目とか、その印象がまだ強いのです。正直にいうと、私は日本に来る前に、60代とか70代のおばちゃんでも、携帯電話にキャラクターのストラップを平気でつけていることは見たことはありませんでした。

ではなぜ、日本人の生活の隅々まで、キャラクターが深く浸透しているのでしょうか。

外国人の私から見ると、それはこの国は平和だからだと思います。平和でないと、友達にプーさんのプレゼントを選ぶ余裕はありません。平和でないと、子どもたちは楽しんで、アンパンマンのパンを食べる余裕もありません。平和だからこそ、物事に対して、付加価値の楽しさを求められるのです。

ある調査によると、日本の高度成長期である 70、80

年代は、ちょうどキャラクター文化が大ブームになった時期だそうです。現代に至って、日本のキャラクターグッズは、人々にとって手放せないほど大切な存在になってきたことも理解できるのではないのでしょうか。

ところで、キャラクターは多くの日本人の心を癒しているように見えながらも、皆さんは何となく少し寂しい感じはしませんか。

例えば、元々友達同士や家族同士に訴えたり、話し合ったりする悩みは、いつのまにか、自分の部屋でキティちゃんに向かって話すようになっていく子どもがいます。そんな子どもたちには、おそらく自分の周りに話を聞いてくれる人がいない、あるいは聞いてくれても、自分の気持ちを理解してくれない不安を抱えているのでしょう。

キティちゃんなら、いつでも聞いてもらえる、何よりかわいいキティは何でも認めてもらえる、と子どもたちが思っているかもしれません。

子どもだけではなく、コミュニケーションが苦手といわれる日本の大人たちでも、現代社会において、いろいろな不安を強く感じているのでしょう。

職場などさまざまなところで、我慢強い性格、そして、なるべくみんなと同じように合わせる意識、絶対にルールを守る責任感など、そんな中で、人間関係に疲れたり、自分の存在感を失ってしまう人は少なくありません。そんな人たちは、人と人のつながりが、少しずつ嫌に思ってしまう、逆にキャラクターや、キャラクター化するものと、心理的に奇妙な依存関係を築いていくことになります。

日本で約2年間を過ごしてきた私は、常に日本人が他の人と関わるときに、異常に慎重になっていると感じます。もちろん、キャラクター依存症のような極端な話ではないのですが、今はありふれているキャラクターに囲まれている日本人は、自分の感情をキャラクターに託して、そして、自己存在の承認をキャラクターから求めているのではないのでしょうか。

親しまれているキャラクターは、人と人の絆を強めるために作られたはずだと思います。キャラクターの癒し効果を大事にするとともに、我々は現実社会と向き合う勇気を失ってはいけません。賛否両論がある日本キャラクター文化は、これから日本社会の発展と共に、どう変容していくのか、そして、世界文化にどのような影響を与えるのかは、今後、私たちが考えるべき課題ではないのでしょうか。

以上、ご清聴どうもありがとうございました。

## 「うどんから学んだ日本語」

ブイー マン クオン (ベトナム)

こんにちは。四国学院大学文学部3年、ベトナム人留学生ブイー マン クオンです。日本に来て6年になります。大学に入る前は、研修生として働いていました。

実は、4年前にこの弁論大会に出場しましたが、どなたか私のことを覚えてくれていますか。今回も宜しくお願いします。

ところでみなさん、今日のお昼、何を食べましたか。私は、「冷や冷や、つるつる」を食べました。わかりますか？ そう、夏は何といっても冷やしうどん！ですね。

とにかく、私はうどんが大好き。週に3、4回以上はうどん屋に行きます。一週間もうどんを食べないと、うどんが恋しくて、恋しくて、頭に浮かぶのは、うどんだけです。

ですが、日本に来たばかりの頃は、うどんが大嫌いでした。初めてうどんを口にしたのは、埼玉県。「オェツ！まずっ！二度と食べたくない」と思いました。以来、うどんはこりごり。

入社して1カ月、社員食堂の定食にも飽きた頃、日本人の同僚たちが、うどんをおいしそうに食べているのに気がきました。それも毎日毎日。「おっちゃん、飽きへんの。おいしいん？」「つるつる、あつあつ、うまいぞ」。その言葉で、うどんがとてもおいしそうに見え、私は思わずうどんを注文していました。そして、一口食べた途端、「ええっ？埼玉のうどんとちゃうわ。うま〜」。これが私と讃岐うどんとの運命的な出会いでした。今では、肉、かけ、ぶっかけ、カレー、きつね、わかめ、天ぷら、ざる等々、うどんを語れば尽きません。

うどんの食べ方にも驚きました。日本では、ズルズル音を立てながら食べても、マナー違反ではないようです。変な食べ方やな。あまりにおもしろいので、なぜ音を立ててうどんをすすめるのかと、何人かに聞いてみました。「空気と一緒にすすって、温度を下げて食べる」「ズルズルという音を楽しむ」「香りが増す効果がある」「のどごしがいい」などという意見。日本人は、うどんをこんなに楽しんだらんと感動しました。

うどんの食べ方から、日本人は食感を本当に大切にしている、そのこだわりや繊細さから、多くの擬音語、擬態語が生み出されたことに気がきました。「つるつる、あつあつ」だけで、私はおいしいうどんをイメージできました。

これは、日本語独特だと思います。日本食品総合研究所の調査では、食感表現の言葉は、英語では77、中国語

では144、フランス語では227、日本語では445とありました。何と、日本語の食感表現は、際立って多く、世界一です。

例えば「ホクホクした焼き芋」、「コリコリしたたくあん」、「シャキシャキのレタス」など、こうした言葉は実際にそれを食べなくても、そのおいしさを伝えることができます。

「餃子ってどんな食べ物？」って聞かれたら、ベトナム人は「皮が硬くて、中は柔らかい」と答えますが、日本人なら「皮はパリパリ、中はホクホク、ジュワー！」と、よりの確においしさを伝えられます。擬音語、擬態語は、外国人の私にとって、斬新で魅力的な言葉です。

郷に入っては郷に従え。最近では、私もうどんをズルズルすすって、のどごしを楽しんでいます。また、おいしい物を食べたときは、どんなふうにおいしかったか、的確な言葉で伝える努力をしています。

うどん県民として、うどんをこよなく愛することから、日本語の文化への理解がより一層深められた気がします。

さて、みなさんは私たち外国人に、どんな言葉で日本のおいしさを伝えてくれますか。

ご清聴ありがとうございました。

## 「素敵に日本女性と教育」

リン ゲイカ  
林 芸華（中国）

みなさん、こんにちは。中国福建省から参りました林芸華と申します。日本に来てから、もう2年になります。

日本に来る前に、日本人のすごく高いマナー意識、日本の良いサービス、日本人の曖昧で物をはっきり言わない国民性、時間に対するととても厳しいルール、仕事に対する真面目で一生懸命な態度など、中国で出会った日本人の先生から、いろいろ耳にしました。

しかし、日本人の災難に遭ったときの笑顔、命と向き合うときの冷静さを、私が初めて実感したのは、2011年3月の東日本大震災福島原発事故が起こったときでした。

そのとき、私はまだ中国の大学にいて、私に日本語を教えていた山内先生は、福島の出身でした。地震が起こったとき、先生は中国の大学で日本語を教えていました。地震が起こった翌日、私にとって一生忘れられない日でした。東日本大震災が起こったニュースを見ると、私の頭の中に浮かんできたのは、福島にいる先生のご家族はどうしたかということでした。しかし、「ご家族は大丈夫ですか？」ということすら聞く勇気が出ませんでした。

私は不安でイライラした気持ちで授業へ行って、相変わらず、元気で明るい笑顔をしている先生を見ると、ほっとしました。絶対大丈夫だったのだろう。もし、ご家族に何かあったら、絶対そんな明るい笑顔をしていないはずだ。私は勝手に判断をしました。授業のあと、私は先生の笑顔から勇気もらった気がして「ご家族は大丈夫ですか？」と聞きました。

残念ながら、地震のあと、先生はずっとご家族と連絡が取れていませんでした。私の予想は外れていました。地震が起きてから、ご家族と連絡が取れない日が3日間続いていました。その3日間、先生は相変わらず元気な声で、明るい笑顔で授業をされていました。先生の笑顔を見て、先生の元気な声を聞いていると、東日本大震災で、ご家族と連絡が取れなくなっているのが、夢みたいに感じられました。

その3日間、私は初めて、かわいくて優しい日本人女性の身から、強い力を感じました。4日目「家は全部潰されて、軽い怪我をしたが、命に別状はない」とご家族からの連絡が入りました。それを聞いて、私もほっとしました。

しかし、あの3日間で、私は本に書かれているのと違う日本の女性を見ました。今でも、私の心に、長く、深く響いている、優しく強い心を持っていた先生の姿が、忘れられません。一体どんな国でこのような女性が育つのでしょうか？

東日本大震災で日本に来ることを迷っていた私は、先

生の姿を見たあと、日本に行くことを決心しました。

日本に来てから、日本人女性の魅力を、さらに実感しました。日本に来て初めての寒い日に、道に迷っていて、暗い小道で友達を待っていて、不安な私のそばに、ずっといてくれた30代の若い母親。病気中の母親を世話しながら、店で笑顔がいっぱい働いている40代の店員の女性。サービスマスターといわれて、いつも期限が切れている商品を買っているコンビニの40代の女性店長。学生にいつも厳しく注意していますが、心が優しくて礼儀正しい50代の国語の先生。自分の父親が亡くなったばかりで、精神的も身体的も疲れているはずなのに、お客さんに気を使って、明るく笑っている友達のお母さん。長い長い冬でも、必ず春がやってくると励ましてくれるアルバイト先の奥様。私が、日本に来て出会って、私のそばにいる日本人の女性に対して、国は違いますが、同じ女性として私も誇らしく思います。

私は日本に来る前に、出世できるように、いい仕事が見つかるように、一生懸命勉強しなければいけないという教育を受けてきました。中国の大学はもちろん、日本の大学で、就職率を重視している大学は多いそうです。立派な社会人を育てるために、学校は一生懸命頑張っています。

しかし、周りの日本の女性を見て、私は思わず自分に聞きました。太宰治の『人間失格』という作品がありますが、立派な社会人になる前に、私たちは人間として合格ですか？合格な人間として、私たちは、何を備えなければいけないのでしょうか？

人間は、自分自身により良い生活を与えるために、物で溢れた社会を作りました。その一方で、いろいろな問題を起こしてしまいました。学業や進学へのストレス、就職難、職場のストレス、今の生活に不満を持った現代人が、ますます増えてきました。万葉時代の人々のように、貧しい生活をしていても、心が豊かで素直に歌を詠んでいる、このような人は現代ではだんだん少なくなってしまったように思います。

教育は何のために存在しているのでしょうか？私たちは、何のために教育を受けるのでしょうか？生存のためでしょうか？心が綺麗で豊かになるためでしょうか？教育というのがまず育てるべきなのは、合格な人間ではないのでしょうか？今を生きている私たちは、もう一度「教育」という意味を考え直すべきではないのでしょうか？

以上です。ご清聴有難うございました。

# 『マニュアル』の日韓差

ジョン ドンシン  
全 東信 (韓国)

皆さん、こんにちは。私は、香川大学教育学部の全東信と申します。高校、大学で日本語を勉強してきました。今年の4月に、韓国の清州大学チョンジュから、香川大学に1年間の交換留学生として参りました。

このたび、私は日本に来た頃の頃、韓国と文化や価値観の違いで、迷ったり驚いたりしたことを発表させていただきます。

香川に来たばかりの頃、いろいろなことが韓国と違って、驚くことの連続でした。最初に驚いたのは、場所によって、身分証明書の基準が違うことです。私は市役所で外国人の身分証明書である在留カードを申し込み、その際、住民票を発行していただき、その住民票で銀行の口座を作ることができました。

同じように、携帯の契約も、住民票でできると思い、お店に行ったところ「ここでは、住民票では契約ができず、在留カードを持ってこなければいけない」と言うのでした。私が「住民票で銀行の口座は作れましたよ」と言っても、お店の方は「マニュアルに住民票は書かれていないので、だめだ」と言うので、結局、契約できず、2週間後に、在留カードが発行されてから契約することができました。

韓国と違って、場所によって身分証の基準が違うことに驚きました。

このような日々を過ごし、香川での生活に慣れて来た頃、私は有名なコーヒーチェーンショップ店で、アルバイトをすることになりました。アルバイト先でも、また驚くことがたくさんありました。

まず、お店では元々の賞味期限よりも短く、独自の賞味期限が食べ物から飲み物まで、全てマニュアルに記入されています。自分が働いている間に、賞味期限が過ぎたものがあれば、韓国ではもったいないので帰っても、普通何も言われないのですが、ここでは徹底的に捨てる姿に驚きました。

また、メガネを触るたびに手を洗わなければいけない。洗浄機で洗ったあとも、アルコールで必ず消毒。決められた時間に物事をしなければいけない。など、全てのことが、マニュアルに載っていることに驚きました。

韓国もマニュアルはありますが、仕事のスピードや融通性を重要視するので、ここまで細かく決められていないのが普通です。

このように、日本ではマニュアルが仕事のやり方を意味して、必ず守らなければいけないという雰囲気が強い

のですが、韓国でマニュアルは最低限の規則であり、場合によってはマニュアル通りに仕事をしなくても大丈夫だという雰囲気があります。

日本のようにマニュアル通りに仕事をすることによって、全ての人が平等な対応を受けます。また、ミスをすることがあまりない、必要以上の仕事をしないなど、いいことも沢山あります。その代わりに、韓国のようにマニュアルより仕事のスピードや融通性を大事にすることによって、同じ時間に多くの仕事ができ、予想外の出来事に早く対応できると思います。

このような違いは仕事場だけではなく、生活の場でも影響があり、日本は電車やバスが決められた運行時間より遅れたり、早く来ることが少なく、とても便利で、韓国は運行時間の多少の誤差はありますが、運転手さんが乗り遅れた人を待ってくれたりもします。

また、人間関係にも影響を与えていると思います。日本の方はとても礼儀正しいのですが、情を大切に韓国から日本人を見ると、少し硬いイメージがあり、日本の方から韓国人を見ると、楽しいですが、少し礼儀を守らなく、うるさいというイメージがあるかもしれません。

ですが、重要視する事や価値観の違いが、国によって違うのは当然のことで、どちらがいいとかは比べられないことです。お互い尊重しなければいけないことです。特に、日本と韓国の関係は、昔から、文化や経済の交流があり、最近では、エンターテインメントやスポーツなど、さまざまな分野での交流も盛んになってきているので、これからも、もっとお互いを理解し、共に発展し、お互いの長所を学び、共に前へ歩いていく関係になってほしいです。

ご静聴、誠にありがとうございます。

## 「『なるほどの味』いただきます」

コウ ビ  
黄 薇 (中国)

うどん県の皆さん、今まで食べた一番おいしいうどん屋さんはどこですか？

讃岐人のうどんへのこだわりは、とてもユニークだと思います。「こしの強いうどん」「うどんは噛まずに飲む」。とても外国人の私には理解できません。「エッジのきいたうどん」ともなると、もう意味不明です。

似たような経験は、まだあります。アルバイト先のコンビニに、毎日ビールを買いに来るお客さんがいるのですが、彼はよくこう言います。「仕事のあとのビールはうまい」と。えっ？ 仕事のあとに飲むと、ビールの味が変わるの？ 私には、「なるほど」とは納得できませんでした。

ところが、6月8日サンポート高松から屋島山頂まで歩くシーサイドウォークに参加したおかげで、私は「なるほど」のおいしさをいただきました。

朝9時、やる気満々で多目的広場に集合しました。そのとき、大学の経営学部長の姿が、目に飛び込んできました。リラックスしたい一日なのに、大学の先生とは一緒にしたくないなあ、と内心思いました。

準備運動が終わり、9時20分に出発。早く目的地に着きたい私は、音楽を聴きながら、1人でさっさと歩いて行きました。

しばらくすると、「黄さん、大丈夫？」と、学部長から声をかけられました。「山に登る習慣がありますから、全然、大丈夫です」。「じゃあ、もっとスピードアップして、行列の先頭に行きましょう」。そう言い終わると、学部長は、大股でさっさと歩いて行きました。私は嬉しくなって、「はい！」と返事しました。話しながら歩くと、時間が経つのが速く感じられ、1人で音楽を聴いているより楽しいです。

なるほど、一緒にしたくない人でも、同じ目標、同じ興味があれば、一言声をかけるだけですぐ同行者になれます。

あっという間に、屋島の麓に着きました。すると、周りの雰囲気、急に静かになりました。学部長も私もほとんど同時に、話を止めました。

さあ、ここからは忍耐力を磨く時間です。みんな最後まで頑張り抜くことに集中します。胸を張って、力強く堂々と登っていく姿もいいですが、頭を下げて、黙々と一步一步登っていく姿は、もっと素晴らしいと思います。

正直に言えば、そのとき、私は本当に頭がクラクラして、山頂まで登るのを何回も諦めようと思いました。し

かし、隣を歩いている学部長の少しも衰えない足取りと真剣な表情に、学部長ともなるとどんなことにもベストを尽くすんだなあと思いました。同時に、40歳も年上のおじさんには負けたくない、とも思いました。

11時半、山頂ゴールに着きました。到着した人たちは完歩証をもらいましたが、この完歩証は健脚の証明だけでなく、私に不思議な発見をもたらしてくれました。

ゴールしたあとのみなさんの笑顔が、スタート前の笑顔より、自然に見えたのです。そして、屋島から見える景色は、今までで最も美しく、風も優しく感じました。同じ人の笑顔、同じ景色、同じ風なのに違って感じたのです。

そのあと、学部長にうどんをご馳走になりましたが、このとき食べたうどんも、今までで一番おいしいと感じました。一生忘れられない味です。そのとき、仕事のあとのビールのうまさも、少し理解できた気がしました。

なるほど。自分の身をもって体験したことには、言葉にできない感動があり、説得力があります。

この日、私は目からうろこが落ちました。日本に来てから、日本国内や海外を旅することに熱中していた私ですが、旅の発見は新しい風景を探すことではなく、新しい目を持つことなのだ。物の見方や考え方を少し変えるだけで、同じものが全く違って見える。違う世界は、案外、自分の身近なところにあるのだと思いました。

この日、私は、たくさんなるほどの味をいただきました。賞味期限のないなるほどの味、みなさんも味わってみてはいかがでしょうか。

ご清聴どうもありがとうございました。



# 第 24 回外国人による日本語弁論大会 優秀賞受賞者

## 香川県知事賞

氏名	国籍	テーマ
コウ ビ 黄 薇	中国	「なるほどの味」いただきます

## 高松キワニスクラブ会長賞

氏名	国籍	テーマ
パン ティ タン ニャン	ベトナム	肉がこわい!!

## 高松ゾンタクラブ会長賞

氏名	国籍	テーマ
ブイー マン クオン	ベトナム	うどんから学んだ日本語

## 香川県国際交流協会理事長賞

氏名	国籍	テーマ
リン ゲイカ 林 芸華	中国	素敵な日本女性と教育



## 第 24 回外国人による日本語弁論大会

---

開催日 平成 25 年 8 月 31 日 (土)  
場 所 アイパル香川 (香川国際交流会館)  
主 催 公益財団法人香川県国際交流協会

**公益財団法人香川県国際交流協会**

**Kagawa Prefecture**

**International Exchange Association**

〒760-0017 高松市番町一丁目 11 番 63 号 アイパル香川

1-11-63, Bancho, Takamatsu, Kagawa, JAPAN

Tel: 087-837-5908

Fax: 087-837-5903